

# 佐渡米通信

# こめ〜る

2022年 11月号

発行日:2022年11月

編集人:佐渡農業協同組合 営農振興部販売企画課 駒形(葵)  
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

## 令和4年産米の 集荷・検査状況

9月30日現在、コシヒカリの1等米比率は78.2%(進捗率約36.4%)となっています。コシヒカリの収穫時期に台風14号が新潟県を通過しました。台風による水害等はありませんでしたが、フェーン現象による異常高温と乾燥が発生しました。台風の接近時に注意を呼び掛け、乾燥方法や作業体系の調整に努めました。

集荷したお米の検査期間は10月下旬までの見込みです。



水稻カレンダー



検査を進めている様子

## 「朱鷺と暮らす郷」推奨店説明会開催

「朱鷺と暮らす郷」推奨店様向けの説明会を秋葉原UDXで開催しました。令和4年産佐渡米の作柄、検査状況の報告、推奨店制度の説明と販売促進活動についての説明が行われました。令和4年産コシヒカリとこしいぶきの試食会が行われ、「甘みが良い」「口あたりがよい」等感想を頂きました。参加していただいた方々より総じて「例年通り食味が安定しており、安心してお客さんにおすすめすることが出来る」との評価を頂きました。佐渡のアピールポイントを磨いていくために、参加された方々から貴重なご要望やご意見を頂くことも出来ました。

以前、営業でお客様に訪問した際に、雑談の中から「佐渡米は古米臭が感じにくい」という話を伺いました。同じ話を他のお客様からも聞いていたため、アピールポイントの1つになるのではないかと着目し、関連する論文を調査しながら研究機関にも問い合わせを行い調査をすすめています。頂いたご意見を大切に販売力の強化に繋げて参ります。



説明会の様子

## 朱鷺の放鳥

9月末に27回目となる朱鷺の放鳥が佐渡島内で行われました。

新たに8羽が自然界に放たれました。環境省によると、野生下のトキは21年12月末時点で478羽(推定値)が生息しているそうです。



箱が開き大空へはばたいていく朱鷺

## 佐渡の米農家さんに インタビュー!!

真野地区の今城章博さん(35歳)にインタビューをしてきました。今城さんは、アグリ株式会社(AGRIS)に勤めています。アグリ株式会社は維持が難しくなる田んぼを引き受け、持続可能な農業の基盤となるために2017年に設立されました。生産品目は、5割減減コシヒカリとこしいぶきで作付け面積は20町歩です。

昨今の農業人口の減少に伴う地域環境及び産業の衰退は地域経済に大きな影響を与えています。アグリ株式会社では、関連会社が運送事業を行っているため、季節や天候によって左右される農業の業務を運送業務でカバーし安定した雇用を維持することが出来ています。法人の事業として農業を行うことで、農業に携わる人口が増え、地域経済の下支えにもなっています。

今城さんの話を伺い、安定して働ける環境が農業に携わるハードルを下げ、農業を続けやすい環境をつくる1つの解決策だと感じました。

今城さんは家族でも約1町歩の田んぼを作っていますが、着任当初から20町歩を任されました。これまで自身が経験していない規模で尚且つ点在している田んぼの位置を覚えなければならず大変だったそうです。運送業をしながら日々のお米の管理は大変ですが、その分収穫の喜びもひとしおだと嬉しそうに語られていました。



令和4年産のコシヒカリが詰まったフレコンと今城さん



真野地区

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。  
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>



JASADOTANBO